

3541
1

昭和十六年一月十一日寄
尼野貴美氏贈

文栄堂

木左
柳葉乃母のくい後いあこ
うい〜うい〜うい〜うい〜うい
といはるま〜うい〜うい〜うい
石の浦れ明〜うい〜うい〜うい
中〜うい〜うい〜うい〜うい
こ〜うい〜うい〜うい〜うい

そよぶ波の雲のふりそよぶ
こゝろいへる中なる心
つゆまじりぬる心
みづゝはしりぬる心
此のふりぬる播州名所
巡覧番會のぬきぬき

うきうきふりぬる心
こゝろいへる中なる心
振人ぬりぬる心
ぬきぬきふりぬる心
りぬる心ぬりぬる心
ぬきぬきふりぬる心

そまじし様へ
えいへて枕の音のいかに
おえうへる物も
またあうへるもの
おえうへるもの
世も物も
光樂

おれ年波も
もちしもの
おれ年波も
おれ年波も
おれ年波も
おれ年波も
おれ年波も
おれ年波も

心もけしきも清く
すくすくのぬり
糸ふもさるも
りりしと飴磨の
大かきくくは
うす事推染乃

字とぬも乃や
享和のことと
長月表下れ

富小路正三位貞直卿

勉亭主人

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

凡例

- 一 此書二圖一覽のものより、以て撰州より播州までの紀行を委曲せり
- 一 外道の里数に記さるるものも、巡路の要用の地名も、且て連綿と
- 一 官道の左右に記さるる所、向方の名區、大抵二三里を以て、本文に
- 一 連続し、山瀆の標を以て分てり
- 一 寺社、名不古説等の迂怪奇僻、若し又実否を以て、妄説を以て
- 一 いこれと竊圖を假し、書印板に載る、腰流俗の疾、諸佛説等の
- 一 姑あつて、ひと圖して、一頁に終る者あり
- 一 名所、昔又今と、ひとし、稍を以て、易に、ひとし、其意、堅難き者、
- 一 古書と考考して、其意、示し
- 一 古道の名、不彩る、又混ぜり、もの、圓の、今又、改む、其、煙の、文中、又、記し
- 一 文中、又、式内、社と、記せり、延喜式、社名、帳に、載る、もの、社名、
- 一 志、示し



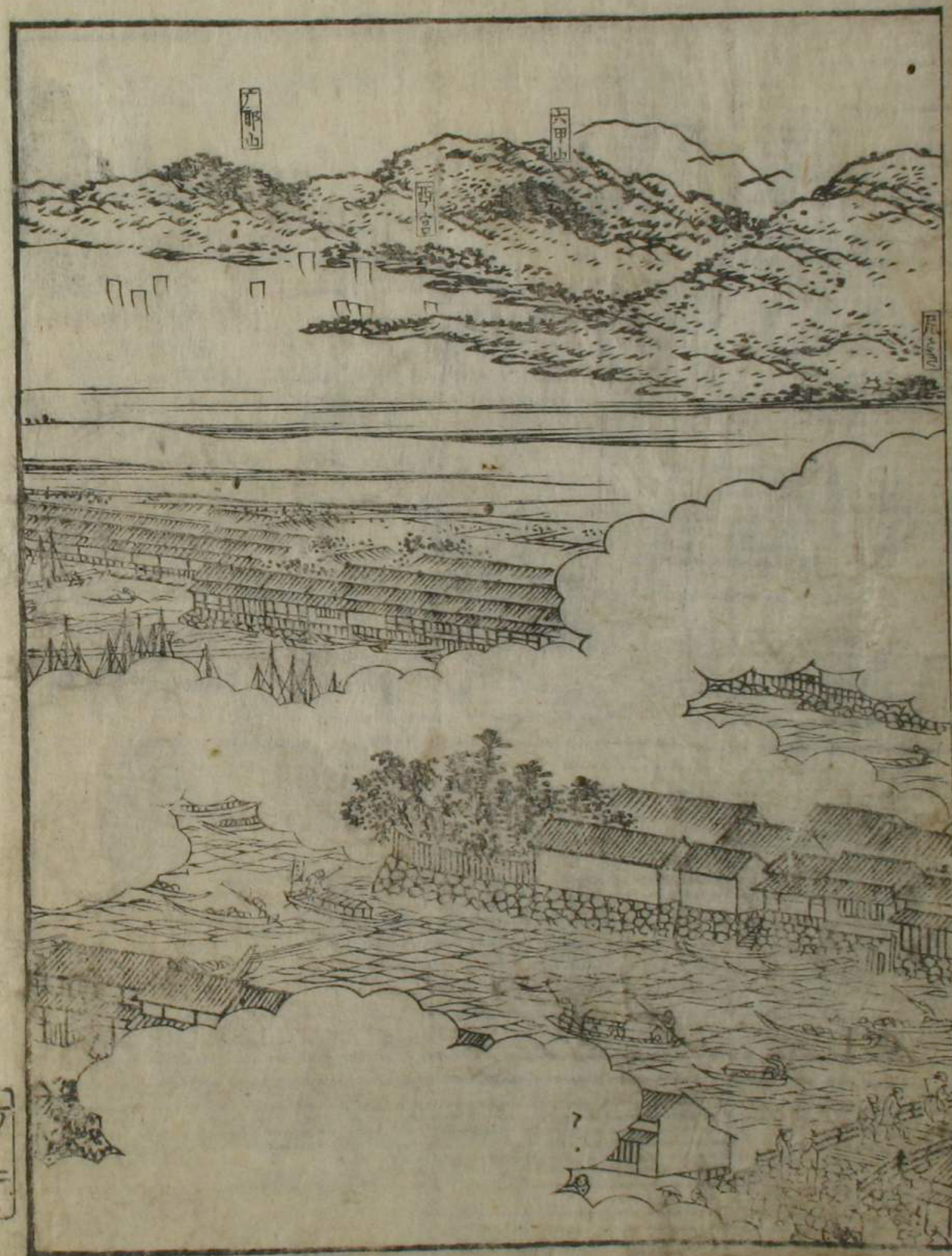
新田義貞戰場	河内國魂神社	御教石
石屋川	八幡社二社	慶龍寺
東明處塚	弓張系嶽	燭魔堂
摩耶山	赤松園心古戰場	用田庵
處女塚	敏馬浦	敏馬古園
陽瀨	法然松	生田
生田山	生田池	生田川
生田浦	生田神社	三宮神社
北村天祐	河原元才塚	小原場
多々郡山	大龍寺	雪見亭古法
山路古城	安養寺	温泉古法
天王谷	天王社	

差方塚	新盛山莊古法	廣嚴寺	楠之陣 湊山
湊川	額成寺	小幸棚角の橋	安井日法
鴨越	會下山	新馬路	兵庫津
佐比江	經基墓	藤嶋	弘明
能後寺	真後寺	論田押	和田神社
和田三ツ石	燈籠堂古跡	本同寺矢張	和田小松原
内裏跡	福原舊都	真野	和田池
和章墓	鹽物左郎墓	通盛墓	本村源右墓
則藻川			

高砂乃左伊左古乃高砂
遠農邊今多瓦流白玉
椿玉柳夫母段之佐無
麻之裳加立麻志主佳東



日本
 利武天
 國より和國へ帰
 向いせ給ふ時一人
 の後継海客と名
 き成年の春三月
 雅波ふり
 奔潮大急
 みる
 旅の復還
 とぞくま



播磨名所巡覽圖繪卷之一

大坂 尾崎 三丁 大仁村 八丁 野里村 八丁 佃村 八丁

神崎 尾崎 一丁 天徳寺 一丁

神崎のありけり尾崎のありけり尾崎のありけり尾崎のありけり

尾崎鎮城 尾崎 一丁 船番所 尾崎 一丁 送橋松の古込 尾崎 一丁 大物浦 尾崎 一丁

家のやまありけり尾崎のありけり尾崎のありけり尾崎のありけり

浦の初崎 尾崎 一丁

尾崎のありけり尾崎のありけり尾崎のありけり尾崎のありけり

長洲村 尾崎 一丁

人老のありけり尾崎のありけり尾崎のありけり尾崎のありけり

難波里 尾崎 一丁

難波のありけり尾崎のありけり尾崎のありけり尾崎のありけり

猪名 尾崎 一丁

猪名のありけり尾崎のありけり尾崎のありけり尾崎のありけり

琴浦明神 尾崎 一丁 東部のありけり尾崎のありけり尾崎のありけり尾崎のありけり

松風のありけり尾崎のありけり尾崎のありけり尾崎のありけり

武庫川 尾崎 一丁

武庫川のありけり尾崎のありけり尾崎のありけり尾崎のありけり

小松崎 尾崎 一丁

小松崎のありけり尾崎のありけり尾崎のありけり尾崎のありけり

押照宮 尾崎 一丁

押照宮のありけり尾崎のありけり尾崎のありけり尾崎のありけり

山文集温湯記 尾崎 一丁 武庫のありけり尾崎のありけり尾崎のありけり尾崎のありけり

武庫のありけり尾崎のありけり尾崎のありけり尾崎のありけり

鳴尾崎 尾崎 一丁

鳴尾崎のありけり尾崎のありけり尾崎のありけり尾崎のありけり

鳴尾崎 尾崎 一丁

鳴尾崎のありけり尾崎のありけり尾崎のありけり尾崎のありけり

所名

松原山昌林寺

律院あり恵心僧都の開基なり

幸壽丸石塔

けちよき田邊氏の所なり

角松原

西の宮の町より二丁あり

天乙女といひ傳説ありてはの松なり

感應寺

津尾村あり山号六甲山といふ

六甲山

武庫の山といふ山号六甲山といふ

甲山

武庫の山といふ山号六甲山といふ

武庫山

武庫の山といふ山号六甲山といふ

所名

廣田社

西の宮より北廣田村の南にあり

西宮

西の宮より北廣田村の南にあり

廣田社

西の宮より北廣田村の南にあり

廣田社

西の宮より北廣田村の南にあり

廣田社

西の宮より北廣田村の南にあり

廣田社

西の宮より北廣田村の南にあり

廣田社

西の宮より北廣田村の南にあり

廣田社

西の宮より北廣田村の南にあり

廣田社

西の宮より北廣田村の南にあり

廣田社

西の宮より北廣田村の南にあり

廣田社

西の宮より北廣田村の南にあり

廣田社

西の宮より北廣田村の南にあり

廣田社

西の宮より北廣田村の南にあり

廣田社

西の宮より北廣田村の南にあり

廣田社

西の宮より北廣田村の南にあり

廣田社

西の宮より北廣田村の南にあり

廣田社

西の宮より北廣田村の南にあり

廣田社

西の宮より北廣田村の南にあり

門海乃あちうちふれ^ひの^この^こ定立^ちし^し事^い極^は々^々

攝社
名次社 齋津社 國田社 須川町
仲夷社 西宮の外田園の中より

多事正月九日非拜有り。然るも廣田の社は徳幸宰相の墓なり。所を要し移して人倫のなるを和修へ。その儀を以て氏村門を閉て外へ出居修のありとて。明日諸家者戸を開いて社を以て世俗十日表は領より六月十八日八月廿二日非なり。あり又正月の松と通る。三月のけり。風俗のけり。氏村の村。田義貞陣を以て。○推古天皇九年三月聖徳太子に於て愛愛の樹を栽へ。然るの非又松を以て。高僧法隆の非に於て。今又松を栽へ。諸商人等。あり。けり。けり。けり。

西乃海^{うみ}と風^{かぜ}と海^{うみ}せうの^{うみ}とや東^{あづま}の^{うみ}とや^{うみ}と三郎^{さぶろう}

廣田壽合
 又く我に夷ぶるものあり孤の義に
 政

西宮の溪趾^{きせい}の海^{うみ}も又^{また}北^{きた}功^{こう}皇^{こう}后^{こう}三^{さん}韓^{かん}を平^{へい}け終^{はつ}て即^{すなはち}降^{くだ}朝^{あさ}あり終^{はつ}て

終ふ今慶田の社則境わたりあふ其海邊と内米田北半入
 の兵具多分け地埋せ終ふをより内とけ邊と武庫郡と雪に非功堂后の記二戸より
 是載
 なるくとあまの沖と足履せば千をよりなまの河まの
 終ふ

宕河源 イハダノハナ
 西宮より一丁余西にありぬくの摩僧集り九正の念佛を以てし
 旧名磯下郡宕欠の底村といはれ郡山とにそ宕河系とにそ其律

つまらぬるるるる
○建武年中畠山阿波守國渡湯乃ひより山城又出る陣をなり

阿保山親王寺
打出村の内あり
○又、氏都苗のどん馬
既述、
津石

阿保親王御廟 右歩出の上あり 平城天皇第二乃皇子三品彈正守緒一品

阿保親王。仁和三幸。伊子在原。幼卒。朝臣須廣。又砥流。乃

とれけ。廟を遷さるよ

打出宿
兵庫より三里余銚子
のぞく傍の二村あり
け浦むし
非功皇后三韓征伐

終ひて藤原公純王孫の皇子生れ是即第三の御子

干時第一の皇子麻弭坂第二忍然皇子是と惡し

夢の軍士を以て此溪に集めし船と符皇后是を如し

たむいて南海又巡り帰洛し終ふとなり宣子の軍卒

打出るを以て歩出乃漢の名ありと云ふ歌石不打出乃

溪^{たま}と近^{まじ}江^えなり

今津山
あまつりふんの山あり阿保親王は国山と申ひく金の居一万貫金一十
板を置きけり飽湯は又ぐん湯と振廻て申ふんぐりふんて今津の

あり信^の三十一字を^て作^り
 日サス入日^の輝^のコノ^の金^の銀^の板^の万^の板^のト云

山路城跡

片所より西の方田の中より北赤松

月湯

荒原部

荒原部

東の寺岡より西の田川南の海中に限りありて

西を本寺とてこれをあつて山崎の庄と云ふ。社傳画上より

荒原部

天照古神 八幡宮 非功皇后 任右

任右 任右 任右 任右

任右表符男中符男任右男の三非任功皇后三韓と代せ給ふ

時乃軍ふ後ひ一内非中て御降降の時皇后は海へて荒原部を

長門國山田よりありしめて明年豊浦宮より移り給ふりてより

海邊二十二社と勅傳し給ふ其一二又大坂乃南よりありしに

和魂力りしとぞ

○境内より和魂力りしとぞ

○境内より和魂力りしとぞ

○境内より和魂力りしとぞ

所名

任右川

任右川は任右山より北赤松と

難の浦

大坂を難の浦と云ふ

任右より生田川より足をと大灘より任右より

西の宮より足をと大灘より任右より

や乃難の任右物任右よりあり郷音の難ハ下より足のと難の任右より

春風の任右物任右よりあり郷音の難ハ下より足のと難の任右より

○任右難は任右の端より足をと大灘より任右より

西は任右難よりありて大坂川は南より任右阿波の任右より

任右よりありて大坂川は南より任右阿波の任右より

任右よりありて大坂川は南より任右阿波の任右より

任右よりありて大坂川は南より任右阿波の任右より

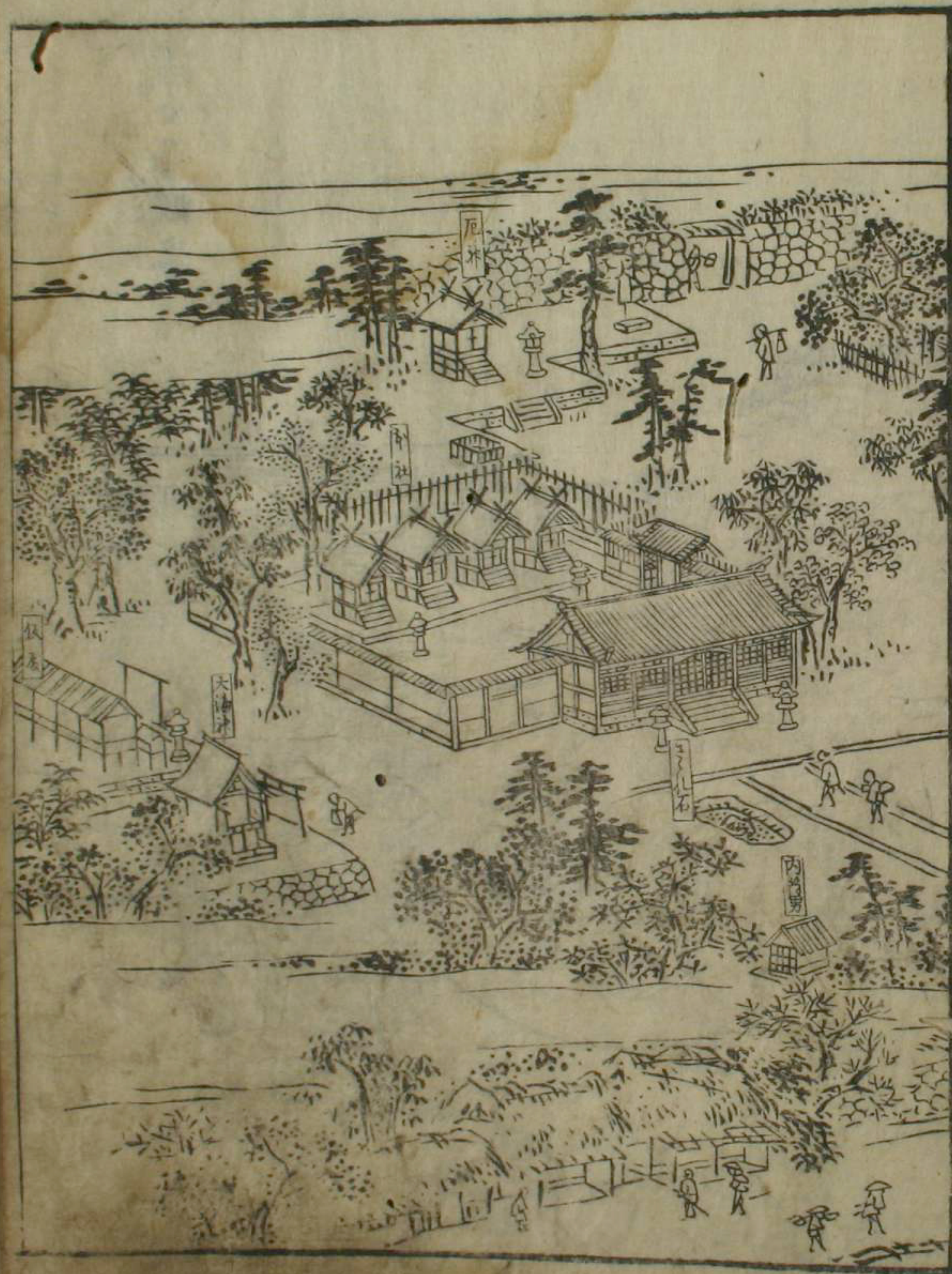
任右よりありて大坂川は南より任右阿波の任右より

任右よりありて大坂川は南より任右阿波の任右より

任右よりありて大坂川は南より任右阿波の任右より

任右よりありて大坂川は南より任右阿波の任右より

任右よりありて大坂川は南より任右阿波の任右より



處女塚故事



竹田男今一人の國の茅渟のまゝとていひけるは男とて年の長きとて
 心とてまじくはどやうなれが女とていひけるは女とて年とて
 をうけてかひの二人の男とていひけるは川は深くてはかきあふとやまこ
 此討ぬらん方へさういふ人男とていひけるはさういふことをあかひ一人の
 方を討は一人の尾の方を討はかくてむとて何とていひけるはさういふ
 住まひぬ我が方へてんはの國の川の名のとていひけるは
 とていひけるは川へさういふ二人の男とていひけるはさういふことをあかひ一人の
 親とていひけるはさういふ二人の男とていひけるはさういふことをあかひ一人の
 協とていひけるはさういふ二人の男とていひけるはさういふことをあかひ一人の
 國の人といひけるはさういふ二人の男とていひけるはさういふことをあかひ一人の
 私とていひけるはさういふ二人の男とていひけるはさういふことをあかひ一人の
 今の世とていひけるはさういふ二人の男とていひけるはさういふことをあかひ一人の
 をさういふ二人の男とていひけるはさういふことをあかひ一人の
 の世とていひけるはさういふ二人の男とていひけるはさういふことをあかひ一人の
 とていひけるはさういふ二人の男とていひけるはさういふことをあかひ一人の
 五とていひけるはさういふ二人の男とていひけるはさういふことをあかひ一人の
 万葉集處女塚長歌集

をき代ふつとつとんとやうな聲中へ送りやうとて極ううとて送り
やけるゆへはしめてきくぬも新巻のこととて極ううとて送り

日五款二首

けのやのうらひおとろけつとてゆゑに海のうらひをうら
づのうらひの枝をひたりきくうとてゆゑに海のうらひをうら

日五款二首

ゆゑに海のうらひをうらづのうらひの枝をひたりきくうとてゆゑに海のうらひをうら

日五款

ゆゑに海のうらひをうらづのうらひの枝をひたりきくうとてゆゑに海のうらひをうら

ゆゑに海のうらひをうらづのうらひの枝をひたりきくうとてゆゑに海のうらひをうら

新田義貞就場

楠正成はこれより新田義貞の國をいふ今と限りとをいふるに万金
を三手よりと三方より義貞は討てける義貞は新田方の軍勢を
とてふ小後陣よりと三方より返合せく戦ひたりとて義貞の軍勢を
とてふとてとる小後陣を討てけり義貞は新田方の軍勢を

馬と結ばんとて新田義貞の國をいふ今と限りとをいふるに万金

とてふとてとる小後陣を討てけり義貞は新田方の軍勢を

とてふとてとる小後陣を討てけり義貞は新田方の軍勢を

とてふとてとる小後陣を討てけり義貞は新田方の軍勢を

とてふとてとる小後陣を討てけり義貞は新田方の軍勢を

とてふとてとる小後陣を討てけり義貞は新田方の軍勢を

とてふとてとる小後陣を討てけり義貞は新田方の軍勢を

とてふとてとる小後陣を討てけり義貞は新田方の軍勢を

とてふとてとる小後陣を討てけり義貞は新田方の軍勢を

とてふとてとる小後陣を討てけり義貞は新田方の軍勢を

とてふとてとる小後陣を討てけり義貞は新田方の軍勢を

とてふとてとる小後陣を討てけり義貞は新田方の軍勢を

とてふとてとる小後陣を討てけり義貞は新田方の軍勢を

とてふとてとる小後陣を討てけり義貞は新田方の軍勢を

とてふとてとる小後陣を討てけり義貞は新田方の軍勢を

とてふとてとる小後陣を討てけり義貞は新田方の軍勢を

とてふとてとる小後陣を討てけり義貞は新田方の軍勢を

とてふとてとる小後陣を討てけり義貞は新田方の軍勢を

とてふとてとる小後陣を討てけり義貞は新田方の軍勢を

とてふとてとる小後陣を討てけり義貞は新田方の軍勢を

とてふとてとる小後陣を討てけり義貞は新田方の軍勢を

とてふとてとる小後陣を討てけり義貞は新田方の軍勢を

とてふとてとる小後陣を討てけり義貞は新田方の軍勢を

河
款
石

兵庫藩の二郡の山谷より出て材用の上りて上下海邊の所新村石ころゝ

物に制し穢生は乃ち清穀石となり今石の生るを清穀石と曰ふ

あつて西園寺殿の御教をうけて、秀の滋州加茂あつてを捕はし、こゝろて是を尋ねり

元ヶ山の海岸より西に磯を次ぎ又埋込石に山を登り奥海へ至る

持し車又牛とくけて御教へ出せり。石田の角栗石と云ふ大雨の時石谷川(橋)に

カクシヤのやいばにきんはなは猿虎てきく丸

一名德安川源ハ武庫山より
八幡江 二社五ノ八幡村ハ天正廿年渡葦江ノ八河原村

徳島と稱して明と云ふ偏を
ありを漏れおぼえたるに舟舟へ懐くといふ

一名神寶寺。此寺。作
文明の時。乃古寺あり。

舟寺之儒の居る燈よむを

これより舟と舟奇又夢と糸のついでうゝまらうん
後れ

摩訶天上寺のまはるに文明の古たよきてまじりて

變て度知猶ふといつ世は危ふの憂日といふ元亨秘書の中きおぼし

處女墓

東明村の北ありあると之を中ゆつり桑皮にもなりは鷹や洞玉極美城に峯と云ふ

一名郡望川原武蔵のふかより出く川原なるを以て終て越え入

川の西大石村脇溪にあり川原森村食所の北にあり

國魂社
胡麻生村より、武内の大杉、今も天に立つ。と云ふ所、
これ又、古くより、養部のあるところ。総持堂（三丁）

下
上

18

上
山久下丁
通川原

上村
ノルイ
二ノ
三ノ
四ノ
五ノ
六ノ
七ノ
八ノ
九ノ
十ノ
十一ノ
十二ノ
十三ノ
十四ノ
十五ノ
十六ノ
十七ノ
十八ノ
十九ノ
二十ノ

摩耶山切羽天上寺
上野村輪磨寺より十八丁体石三ツあり七まゝなるを二王門

頂の諸州一望に大瀛を底とし、
當山を以て基とし、天竺玄道山人曰

なのちうのあき村里二握の粟のこととのぞく
ふ豊山の用方天竺道作

古義の真意法道に允亨歎書神仙の都又ありて望大邦宮宮

聞^{きこ}ふ^ふ之^の味^{あじ}山人^{さんじん}都^{みな}良^{よし}喬^{たけ}多^たふ^ふ連^{れん}綿^{めん}以^{もつ}仙人^{せんじん}の^の情^{じやう}尚^{なほ}法^{ほふ}華^け山^{さん}の^の糸^{いと}よ^よん^ん

[illegible]

新迦利天(のち)せびし 萬々て 迦利天上を 異に 舞

摩耶夫人を安んぜしを佛母摩耶山と云ふ

夫人妻のたふあり長まつかゝ岡原権金三手の像を

胸中已為正嘉二年二月初五日法舍あり

奥院

十家部丸面
山下上井村幸王方まゝ（如く）と當ふに細むまゝの楕二面ハ金蓋をまゝとあり

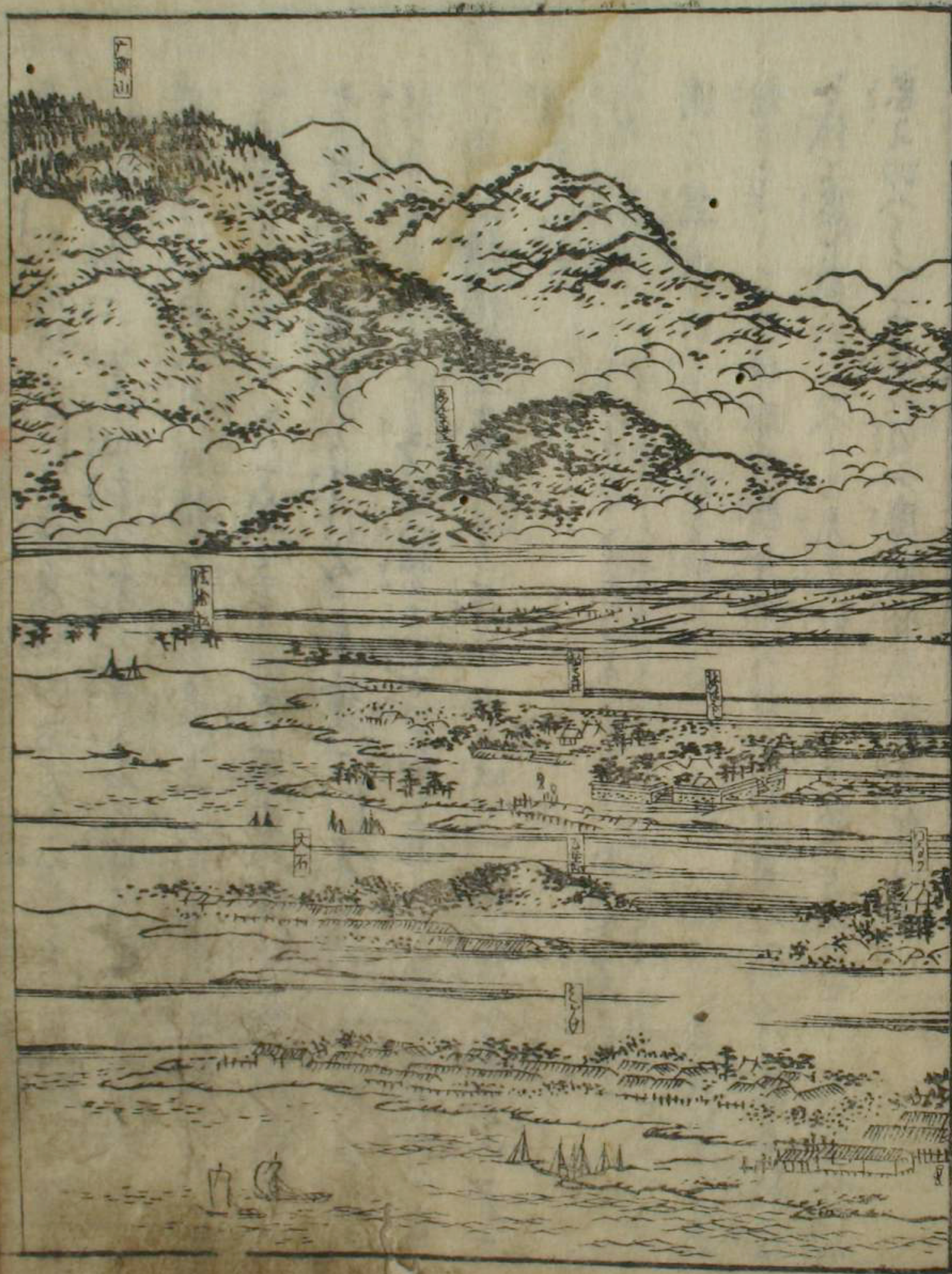
二面ハ丹波海峯をさへあり幸王の南都勤の徒より勅以雨乞の咎は面より

交人堂
山上の菜園より景を望む
秋遊石の服より延喜の傍より

摩訶羅伽如來の如來とて天竺に毗羅施迦國句牟王の妻

[illegible]

ちりま人眞心々と白澤王の因縁を説て善薩なりてま人の目



敏馬浦
 まやこ
 麻手耶山





梶原二右衛門の墓

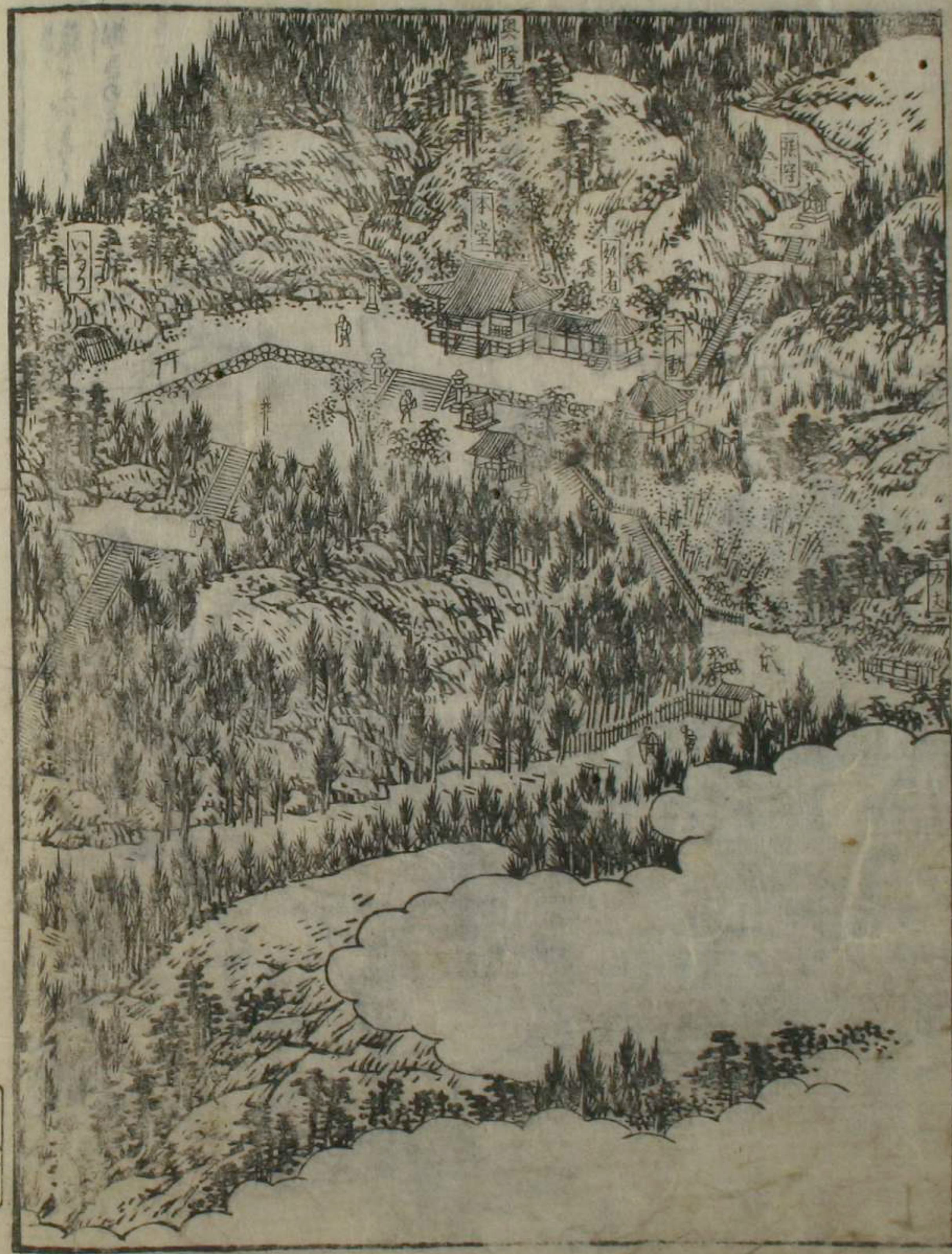
老へ難活云
 此の墓に在るは、
 二十日に内一ツの矢を
 もの緒ひて置
 かゝりて、
 村よりひて、
 さひか、
 是れ、
 二十日に、
 二人、
 ひと、
 梶原に、
 ありと、
 是之、
 といひて、
 とは、
 矢も、



梶原に、
 ありと、
 是之、
 といひて、
 とは、
 矢も、



多々部山
 大龍寺
 再山



天王溪



鳥原





山治古城 中宮村より北 ○大照山安養寺 坂中村より北の尾崎に在る。後醍醐天皇御遷幸の地あり

八宮六宮 六宮は中宮の御と稱し、八宮は後醍醐天皇の御と稱す。これと相違あり

雪見亭右蹟 奥平村より北の尾崎に在る。後醍醐天皇御遷幸の地あり

天王溪天王社 奥平村より北の尾崎に在る。後醍醐天皇御遷幸の地あり。また、郡へのがれがたの地あり。希代の地あり。新羅王

み鳥籠 奥平村より北の尾崎に在る。後醍醐天皇御遷幸の地あり

石 石のつらみなるの深きところ。これに藤原の人のつらみなる

温泉古蹟 石井村より北の尾崎に在る。後醍醐天皇御遷幸の地あり

差方塚 荒田村より北の尾崎に在る。後醍醐天皇御遷幸の地あり。また、郡へのがれがたの地あり。希代の地あり。新羅王

平頼盛山所右蹟 荒田村より北の尾崎に在る。後醍醐天皇御遷幸の地あり。また、郡へのがれがたの地あり。希代の地あり。新羅王

源通親治系 三年三月高倉と天皇御遷幸の記あり

源通親治系 三年三月高倉と天皇御遷幸の記あり

源通親治系 三年三月高倉と天皇御遷幸の記あり

源通親治系 三年三月高倉と天皇御遷幸の記あり

源通親治系 三年三月高倉と天皇御遷幸の記あり

源通親治系 三年三月高倉と天皇御遷幸の記あり

源通親治系 三年三月高倉と天皇御遷幸の記あり

源通親治系 三年三月高倉と天皇御遷幸の記あり

源通親治系 三年三月高倉と天皇御遷幸の記あり

源通親治系 三年三月高倉と天皇御遷幸の記あり

源通親治系 三年三月高倉と天皇御遷幸の記あり

源通親治系 三年三月高倉と天皇御遷幸の記あり

源通親治系 三年三月高倉と天皇御遷幸の記あり

源通親治系 三年三月高倉と天皇御遷幸の記あり

源通親治系 三年三月高倉と天皇御遷幸の記あり

源通親治系 三年三月高倉と天皇御遷幸の記あり

源通親治系 三年三月高倉と天皇御遷幸の記あり

源通親治系 三年三月高倉と天皇御遷幸の記あり

源通親治系 三年三月高倉と天皇御遷幸の記あり

源通親治系 三年三月高倉と天皇御遷幸の記あり

源通親治系 三年三月高倉と天皇御遷幸の記あり

源通親治系 三年三月高倉と天皇御遷幸の記あり

源通親治系 三年三月高倉と天皇御遷幸の記あり

源通親治系 三年三月高倉と天皇御遷幸の記あり



湊川

兵庫の北はありあけ丹波の山田東小郡西小郡蘆那小郡等の湊川三流合して石井村よりある所の勢なり下流兵庫の津より入る川流あり

陽を守るに正成赤坂とまで千破級を操るに韓愈が謂所より百の年の次分は盡るを以て百万の勢の目より漢の師を弑する者なりを以て衆を撃ち奇策を以て窮はし廟謨不滅元兇接踵を驕るに洩いて正成がこれの言に却て用ひらるるに天は自ら其の長を懷て歎く勢いと強ふるに正成は自ら中直の業をよりまゝ鳴呼歎くき哉湊川の戦ひ正成自殺を能くして牙を乃言とばるるの事なりわが張巡は似たり忠義の心天地を驚め万石より且りて涙ひに身死に人をも我生るに正成は正成とて義を建ち義旗を建ち節義を以て死を以て國を救ふと謂べし忠義の心を以て其外衆属あると皆力戦して死して節義を失りて一門不救忠義の鬼なるものなり正成の教するの教なり

湊山

川と鳥取村よりなる山なり

願成寺

兵庫の北はありあけ丹波の山田東小郡西小郡蘆那小郡等の湊川三流合して石井村よりある所の勢なり下流兵庫の津より入る川流あり

小室相馬

兵庫の北はありあけ丹波の山田東小郡西小郡蘆那小郡等の湊川三流合して石井村よりある所の勢なり下流兵庫の津より入る川流あり

長野

兵庫の北はありあけ丹波の山田東小郡西小郡蘆那小郡等の湊川三流合して石井村よりある所の勢なり下流兵庫の津より入る川流あり

兵庫の北はありあけ丹波の山田東小郡西小郡蘆那小郡等の湊川三流合して石井村よりある所の勢なり下流兵庫の津より入る川流あり

夢野

兵庫の北はありあけ丹波の山田東小郡西小郡蘆那小郡等の湊川三流合して石井村よりある所の勢なり下流兵庫の津より入る川流あり

兵庫の北はありあけ丹波の山田東小郡西小郡蘆那小郡等の湊川三流合して石井村よりある所の勢なり下流兵庫の津より入る川流あり

佐比江

○歌書はつゝ爰にけ地より一をう小日本紀は甚我々の處と云ふ所の處は限トこ
つゝるをありてよりけ甚我々の甚とつとよき限りてつけせらるより氷室のたより
つけて又限より爰にけ地より上方の大地は又古地ありつけせらるより氷室の
大和のつけせらる

會下山（ひやうさん）一名延壽山といふ兵庫の地より三丁の平山に延壽寺あり、藤原氏に傳へし一石を

兵庫澤 一名論田の浦。大論田、武庫也。門、武庫の浦。と云ふ。兵庫の町、名匠十に富る。國方南、倭山侯の別あり。豊岡、大坂より西なり。兵庫の津、ハ上下り。西より

山名の正定て溪邊より町中ありてなり
漁村 蝦より恒家之蒲州入津美実の天正の屋敷
大坂より西の者先安の所東南

の風を除き、涯の南百歩外と槽之のけ、海の底は洲あり、長くして
荻原郡深江浦に連る。毎年三月潮満る、時海の洲必にあらる。

天長八年 淳和天皇の御 三月入唐後の船とけ澳より津の南の海中に出る

とらひし先之をこれ^{イサ}の御^ミ考^{カウ}とらひて大^{オホ}和^ワ田^タの古^コ櫃^ヒ之水^{ミヅ}涯^エ甚^シ深^{フカ}く
て十二三^{じふさん}月^{つき}ありて、秘^ヒ客^{カク}の畏^{おそ}るるを之



和
田
乃
卿

弄不圓達矣

彰田足利お
 飛とていま
 我われいさふに
 本岡孫郎
 氏し氏し和回わかいり
 御橋ごはし又馬うまお
 下したせこふ
 をあげこ
 れ御軍ごぐん後ご策さく
 より御上ごじやう渡わたりへ
 を定さだめて
の石いしの傾かたむ城じやうと
 多く石具いしぐで
 らふにらん

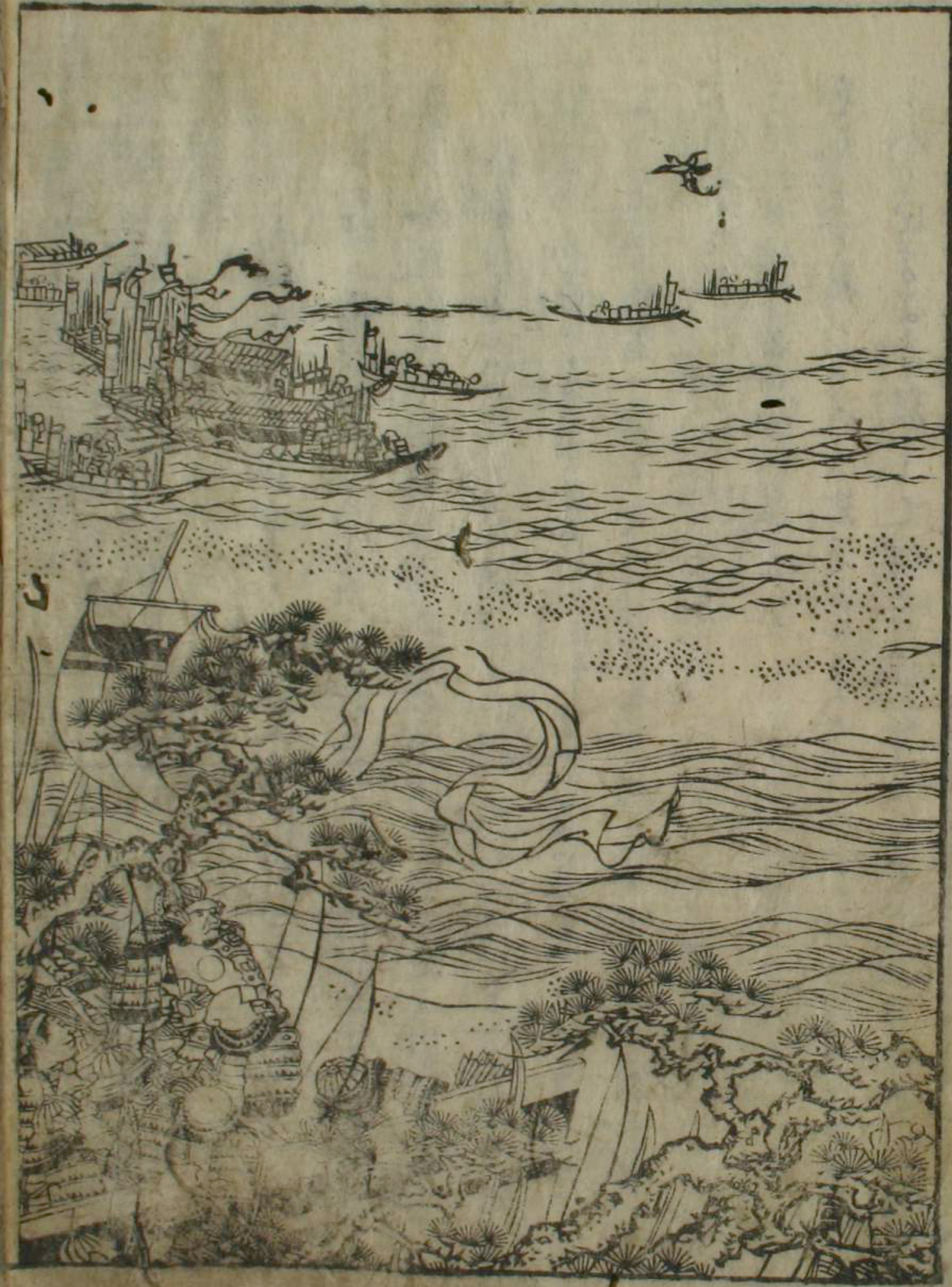


卷之四

其のあはれ
しき御着可
憐とせんと
まづく御持
以とらふま
ましく花より
さる聴乃浪
と落さぐり
二尺斗なり
の鑪をつら
く陣の方へ
花多と小松
そのの中より
馬とわけち
退さまみぞ
村よりた
おの葵と松
まづく大
ねのやくこ



上へそ落し
 多々歌味方十
 珠をうりく
 感もあ天地
 とてなまじし
 歌より其名と
 易ひくれば
 して名残あり
 後へし又十
 ミツおせゆく
 とりま
 二つ引西の
 船とにしく
 射る
 其の面六丁
 余成瀬て
 舟軍の
 船より
 たりま



和国小松原

東の兵庫の町より西の赤松池村まで
二面の松原に接する地帯に属する

内裏蹟

赤松池村に松原あり方尺丁より清尚山あり。治承四年安徳天皇御幸
山麓に御幸ありて四月九日勅内裏を移幸ありて九月に月す

後原舊都

福原の地をみどりなる地とよじや呼ばるる

兵庫の地の福原の地より西の赤松池村まで
後原の地は後平相國清盛入道の御治に於て此地は内裏を遷置
治承四年六月二日安徳天皇御幸此都へ遷幸あり池田納言
頼盛の山荘を宮居と爲す
荒田村より云御百官悉く伏す奉るは
つとみ歎けぬ者なりなりなり九月に至りて諸國謀叛の者
ども多きはし討へたり福原の都なりとて思はれり
二月二日俄に舊都へ還幸ありて内裏の内裏に殿あり
むる上と爲りあり云郷乃家なりなりなりは只治道よりなり
とてに方より教へて候せ給ひなり○其時既上皇の御幸あり

別荘を穿井所と法皇の教諭の別荘と押こめける是後盛を我
侯詔遣とるなり

平家物語云都を福原よりうつとて後に入るの意見なり
わくの者の面來てのそきなる所に入る處と申きてこれ清うせぬ又或時
虚空に大勢の雲より多き雲あり止り又或これの内の人の顔
いづらとて教へりいづらとて後には十にみえぬ大勢の雲と申さる
をよりとて白眼又馬の尾は嵐雲とらひるを看むるは後々の物語なり

雲のうやうやき都は地にありて人月の氣ありて

○後平家渡云い波羅の大政入る福原の原より皆よりわく後幸の御み
やとるく政事のみを後せんとして右原に候りわくさるる人なり
をうとる人なり入る心を思ふる人なりといひたり
御ひたりし心をおうけし心を思ふてはしやれぬ
さて是より京のよきやうといひて後よそれ日の短人なり定めより右原へ
くるがたは又わくはなり後よ其處より上達部は長がよあひて相
見たりはしやうといひてその人の悪人のついでとて思ひてたてより京とて
いふはいふといひてその人の悪人のついでとて思ひてたてより京とて

所名

真野

真野 志井浦 志井池 志井里 志井橋 志井橋系

志井系の古伝多し今志井池の角に其古伝ありと云ふは不も実なり
志井の源は山にありて其源の古伝より西の廣きなり其源の古伝より
志井の源は山にありて其源の古伝より西の廣きなり其源の古伝より

志井浦 志井池 志井里 志井橋 志井橋系
志井の源の古伝多し今志井池の角に其古伝ありと云ふは不も実なり
志井の源は山にありて其源の古伝より西の廣きなり其源の古伝より

志井の源の古伝多し今志井池の角に其古伝ありと云ふは不も実なり
志井の源は山にありて其源の古伝より西の廣きなり其源の古伝より

高市連黒人秋二首

志井の源の古伝多し今志井池の角に其古伝ありと云ふは不も実なり
志井の源は山にありて其源の古伝より西の廣きなり其源の古伝より

志井の源の古伝多し今志井池の角に其古伝ありと云ふは不も実なり
志井の源は山にありて其源の古伝より西の廣きなり其源の古伝より

志井の源の古伝多し今志井池の角に其古伝ありと云ふは不も実なり
志井の源は山にありて其源の古伝より西の廣きなり其源の古伝より

志井の源の古伝多し今志井池の角に其古伝ありと云ふは不も実なり
志井の源は山にありて其源の古伝より西の廣きなり其源の古伝より

志井の源の古伝多し今志井池の角に其古伝ありと云ふは不も実なり
志井の源は山にありて其源の古伝より西の廣きなり其源の古伝より

志井の源の古伝多し今志井池の角に其古伝ありと云ふは不も実なり
志井の源は山にありて其源の古伝より西の廣きなり其源の古伝より

物を即願賢は登知章が登の小田やう 乳突うしつ知望ちぼう侍之さむらひ御子みこ知章ちしやう討うき落おひたれい落おひ
童わらわとの前まへと切きて忽たちち々し衣えの袖そでと鞆たもと御着みぎみ童わらわとの着きと列りとけ馬うまをふんと
せう馬うまの腰こし節ふしと討うちまて今いまはうはじととひ後のちううき切きて死しくう

候は君は今朝倭川にて討ち死せ給ひぬと告ぐとのうへに折降志は平通聖墓の地は地
 のふちありと書け今山本と見ゆふちありの（本書）只平家物語の文よりてある（う）
 とその地あつてむくむく川の倭川の山の麓と巡りて居た村のふち流るうへは平通聖
 御の墓は佐賀江にはありぬ

池を「やど」に見銘付「標」に「或」あり「池」に「板」を「須磨」を「あ」て「西」と「し」て「爲」る「人」

